

## メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 2:1~4 「パウロの苦闘」

[1]「あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います」

パウロの細やかな配慮はコロサイ教会の人々ばかりではなく、コロサイ教会と地理的に近いラオデキヤの信者たちにも、また、まだ出会ったことのないことのない信者たちにも及んでいる。彼はそういった直接、間接の信者たちに対して自分がどんなに苦闘しているかを知ってほしいと語る。彼の苦闘とはいかなるものであったのか。現在、信仰のゆえにローマの獄中で捕われの身である彼にとってできることは手紙を書くことと祈ることであった。彼は手紙において信者たちを慰め励まし強めるとともに、祈りにおいて苦闘したと考えられる。特に時間、距離、環境によって隔てられている時、残されている道は祈りであろう。パウロはまだ見ぬコロサイ人やラオデキヤやその他の信者たちのためにひたすら祈りに励んだのである。さらにもう一つの苦闘があったことも考えられる。それはわが身の安全のために沈黙し、福音を放棄する誘惑との戦いである。→Ⅱテモテ4:10 デマスを見よ。しかし、パウロはそのようなことを決してしなかった。彼は自分のためにいのちを捨てられたイエス・キリストのために、そして彼の後に続く人々のためにも苦闘しつつひたすら主に従い続けたのである。→Ⅰコリント9:27

[2]「それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです」

パウロが福音のために苦闘している目的は三つある。

①彼らを励ますため。

②彼らが愛によって結び合わされるため。…真の教会を特徴づけるただ一つのしるしは、神に対する愛と主にある兄弟姉妹たちに対する愛である。神が私たちを愛してくださったように私たちもお互いに愛し合い、愛によって結び合わされていくなれば教会は強くなり、大きく成長することができるであろう。

③理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるため。…確信のない頭だけの知識ではなく、聖霊によって全き確信を与えられた知識や理解は真にキリストを知らしめるものとなる。

[3-4]「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです」

パウロはこのように言うことによってコロサイ教会やその他の信者の群れに入り込もうとしていたまことしやかな議論の異端を一刀両断にしようとしたものと思われる。当時のグノーシス主義哲学にもとづく異端は、救いには非常に高度で複雑な一連の悟りが不可欠であると信じていた。しかし、その悟りは一般の無学な民

には隠され閉ざされた奥義とされていた。つまり彼らの奥義は普通の人々を締め出してしまふものであった。しかし、これに対してパウロは「私たちの知恵と知識との宝はすべてキリストのうちに隠されている」と言う。キリストこそ神の奥義である。このキリストは今やすべての場所にいるあらゆる人々に恵みによって開かれている。それは隠された奥義ではなく開かれた奥義なのである。キリストを信じる者は誰でもこの知恵と知識との宝に近づくことができるのである。

このように教会はまことしやかな議論によって迷わされることのないように、しっかりと真理のうちに立っていなければならない。真理はキリストと神のみことばにある。

パウロがこのように命がけで育み、苦闘しつつ守り、成長させてきた教会を私たちもまた力を尽くして守り、健全にし、立て上げていかなければならない。パウロの心を心として、私たちも信仰生活において奮闘するものとなっていきたい。